

世界に認められる有機栽培茶の産地をめざす

～一人だけではなく有機茶園グループのみんなで高品質茶を生産～

豊田市 石川哲雄（いしかわてつお）さん
工芸作物（茶）

【平成23年12月19日掲載】

豊田市で、てん茶を中心に煎茶、かぶせ茶、玉露の生産を行っている石川哲雄さん（写真1）を紹介します。

石川さんは、豊田市平坦部において肥料や農薬を低減し環境保全に配慮した栽培を行うとともに、山間部ではグループの仲間と有機栽培を行い、生産した茶は取引業者を通じて国内をはじめとし、ヨーロッパや北米へも輸出されています。

また豊田市茶業組合の組合長や愛知県茶業連合会の副会長を歴任され、県内の茶農家の先導役として尽力されるとともに、地元では児童や中学生を対象に茶摘み体験などを実施し地域活動に貢献されています。

このような地域の模範となった功績が評価され、平成22年に黄綬褒章を受章しました。



写真1 石川哲雄さん

1 標高差を利用した茶生産

石川さんは、大学在学中に、茶業を営む父が病床に伏したため、後継者として19歳の時に就農しました。以来、44年余り、茶生産に携わっています。当初は煎茶の生産が中心でしたが、抹茶の需要が高まるとてん茶中心の生産に切り替わりました。

現在では、平坦部（標高60m）の豊田市豊栄町で150a、山間部（標高650m）の和合町（旧下山村）で310a、計460aで、標高差を利用した作期・作業分散による茶生産を行っています（写真2）。品種は約8品種あり、平坦部では「やぶきた」を中心に「あさひ」、「さみどり」など、山間部では、「やぶきた」、「こまかげ」の2品種が大半で、特に「こまかげ」は寒さに強い特性をもち、山間部の主力品種となっています。

労力は、石川さんはじめ、奥さんの瑞枝さん、長男の龍樹さんが主体で、補助的に娘さんとパート1名が手伝っています。また和合町下山地区の人材センターを通じて作業員を雇用しています。



写真2 平坦部の茶園

出荷は、全体の8割を荒茶として取引業者へ出荷し、残り2割を仕上げ茶に加工して直販し、自然食品グループやJAグリーンセンターなどで販売しています（写真3）。

2 環境保全に配慮した栽培

平坦部では肥料や農薬を低減し環境保全に配慮した栽培に取り組んでいます。具体的には、施肥において平成19年から樹冠下点滴施肥システム（注）を150aのうち140a導入しました。これにより施肥窒素量は県基準の30%を削減しています。また農薬散布回数は、平成元年まで年に約10回だったのが、現在では時期ごとに整枝を工夫して、害虫の発生密度を減らしているため、年間1～2回散布するだけです。

山間部では全面積で有機栽培を行っています。施肥は菜種粕、落花生粕、有機配合肥料などを使用し、8回以上に分けてこまめに散布しています。もちろん無農薬栽培で、ほ場内の草刈りは人材センターからの作業員に手伝ってもらっています。

注）樹冠下点滴施肥システム

愛知県農業総合試験場が開発した技術。窒素成分として尿素を使い、液体の肥料を低濃度で使用、施肥量を30%削減可能、かん水と施肥を同時に行い、少なくとも1日1回は施用するシステム

3 農薬を使用しない栽培から始まった有機栽培

有機栽培を始めるきっかけとなったのが、昭和46年当時、旧藤岡町の茶園での農薬を使用しない栽培の実現でした。石川さんは、「これからは消費者の健康志向が高まり、安全なものが求められる時代が来る」と確信し、農薬を使用しない栽培を試したところ、標高が高く気温が低いため、害虫の発生がほとんど無いことが確認でき、同栽培が始まりました。その後、昭和53年に旧下山村和合地区での造成事業により、新たに取得した土地で新植し、ここでも無農薬栽培を行いました。

時代とともに有機食品へのニーズが高まると、取引業者との方向性の一致もあり、平成6年から本格的に有機栽培を始めました。以降、平成9年、石川さんが中核となり、茶農家2戸とグループを結成し、日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会（JONA）の有機農産物の認定を取得しました。これをきっかけに、下山地区の他の農家も石川さんの技術指導により有機栽培に取り組むようになりました。平成14年にはスイスのIMO有機認証（ヨーロッパ規格）を、現在では下山有機茶園グループ（10名）及び取引業者とともに、海外貨物検査株式会社（OMIC）の有機農産物・加工農産物認定を取得しました。

石川さんはじめ、グループ員が生産した茶は取引業者を通じて、国内で販売され、さらにヨーロッパや北米へも輸出されています。

4 県内における茶農家の先導役

石川さんは、平成11～14年に豊田市茶業組合の組合長として伝統行事の豊田新茶手もみ講習会の開催、巡回茶園指導などを実施し、組合員の栽培技術の向上を図り、新たな市場開拓や「とよた茶」のPRを行い、組合をリードしてきました。平成18年には愛知県茶業連合会の副会長として、県内の茶農家の先導役として尽力されました。

また地元では茶業組合を通じて、児童や中学生を対象に茶摘み体験、手もみの研修、



写真3 加工施設の様子

てん茶の工場の見学などを実施し、茶生産への理解や地産地消に向けた活動を行っています。

5 世界に認められる産地へ

将来の夢をお聞きしたところ「有機栽培において、一人だけではなくグループのみんなで切磋琢磨して栽培技術を向上させ、高品質茶を世界へ販売していきたい。面積的には小さな産地であるが、世界に認められる産地になりたい。」と大きな夢を抱いておられました。

「まだ自分は経営主であるが、将来、息子に経営移譲していく。息子には規模拡大だけでなく、既成概念にとらわれない、新しい取り組みを行って欲しい。」と期待を込めて語られました。

執 筆：農業経営課

取材協力：豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課

Copyright (C) 2011, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.